





全国学力・学習状況調査結果と1学期末ほっかいどうチャレンジテストの結果における 本校の概要と課題・改善の方向

(1) 全国学力・学習状況調査結果における本校の概要と課題・改善の方向

4月に行いました6学年対象の全国学力検査の結果が出ましたので、本校の調査における概要と課題・改善の方向についてお知らせいたします。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
小 学 校 ・ 国 語	<p>【区分及び領域】</p> <p>主として「知識」に関する問題A</p> <p>□「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」の2領域1事項で、正答率が全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。「話すこと、聞くこと」の1領域で、正答率が全国平均を下回っている。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が特に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学級会での話し合いにおける報告の説明として、適切なものを選ぶこと。 ●手紙の構成を理解し、後付けを書くこと。 ●「参加対象」「箱を<u>お</u>いておく」といった漢字を、正しく書くこと。 ●目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。 ●登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えること。 ●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと。 ●目的や意図に応じ、引用して書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチについて助言し合う活動の設定、考えが伝わるように話すことができているかの振り返りの実施等を取り入れた指導の充実。 ○得た情報から必要な内容を整理して書くことができるようにする指導の充実。 ○低学年のうちから声を出して読んだり、動作化したりする活動を取り入れることにより、登場人物の相互関係や心情、場面描写などを捉える力を付ける指導の充実。 ○書く活動やの中で、文や文章の中で正しく漢字を使うことができるようにする指導の充実。 ○他教科との関連を図りながらの、手紙を書く活動の設定。
	<p>主として「活用」に関する問題B</p> <p>□「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域で正答率が全国平均を下回り、「読むこと」の1領域で、正答率が全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p>		

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
小 学 校 ・ 算 数	<p>【区分及び領域】</p> <p>主として「知識」に関する問題A</p> <p>□「量と測定」の1領域で、正答率が全国平均と同程度であるがやや上回り、「数と計算」「図形」の2領域で正答率が全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回り、「数量関係」の1領域で、正答率が全国平均を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数量関係」の領域の正答率が最も低くなっている。 ・短答式の形式の問題で正答率が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10. $3+4$ や $6+0.5\times 2$ を計算すること。 ●$5\div 9$ の商を分数で表すこと。 ●円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいのかを書くこと。 ●未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すこと。  <ul style="list-style-type: none"> ●仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求めること。 ●「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶこと。 ●直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を、問題場面に適応させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数や分数の四則計算については、朝のチャレンジや宿題、月6TTや木6TTなどで取り扱い、習熟を図る授業の充実。 ○具体的な場面と関連付けながら図に表したり、答えの大きさの見当をつけたりすることで、数量の関係を捉える指導の充実。 ○授業において、手を使ったりする体験的な活動を通して、体感的な経験を生かす指導の充実。 ○図形の性質など、理解したことや知識として得たことを活用する問題を取り扱うなど、活用力を身に付けさせるための授業の工夫・改善や算数教室の活用。
	<p>主として「活用」に関する問題B</p> <p>□「図形」の1領域で、正答率が全国平均と同程度であるがやや下回り、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3領域で正答率が全国平均より下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「量と測定」の領域の正答率が最も低くなっている。 ・短答式の問題で、正答率が低くなっている。 		

【学校や家庭での学習や生活の様子について】

- ☆国語の学習が好きだ、学習内容がよく分かる、国語の学習が大切だと答えている子どもの割合は、全国平均より上回っている。算数の学習が好きだ、学習内容がよく分かる、算数の学習が大切だと答えている子どもの割合は、ほぼ全国平均並みである。好きな授業があるという割合が全国平均に比べ高い。
- ☆宿題や予習・復習など、家庭で計画的に学習に取り組んでいる子どもの割合が全国平均より上回っている。
- ☆読書が好きなお子さんの割合が、全国平均に比べ高い。
- ★寝る時刻が不規則なお子の割合が、全国平均に比べ高い。
- ★TV や DVD を観たり、ゲームをする時間が長いお子の割合が全国平均に比べ低いのだが、スマホのメールやネット利用の時間は全国平均より高い。

<まとめ>

この「全国学力・学習状況調査」は6年生のみ対象の調査でしたが、見えてきた問題点を全校的な課題として捉え、改善に取り組んでいきます。低学年から系統的に育てていくことが大切だからです。

「学力調査」では、国語・算数のテストの結果を受け、上記の「内容の具体的な改善の方向」の通り取組を進め、楽しく分かる授業を目指していきたいと考えています。

御家庭での学習については、学校だよりも触れたとおり、大きく改善されています。御協力ありがとうございます。就寝時刻の規則化や、スマホ・ネット利用の時間の短縮を目指すよう、更なる御協力、よろしく申し上げます。

今後も「家庭学習の手引」や「札苗スタイル10」、「さつぽろっ子『学び』のススメ」などを活用し、御家庭での学習や生活に役立てていただきたいと思います。

(2) 1学期末ほっかいどうチャレンジテストの結果における本校の概要と課題・改善の方向

7月に行いました全学年対象のほっかいどうチャレンジテストの結果が出ましたので、本校のテストにおける概要と課題・改善の方向についてお知らせいたします。

<1年生の各教科の概要と課題・改善の方向>

☆国語→北海道平均や札幌市平均を下回っている ☆算数→北海道平均や札幌市平均を下回っている

◆課題◆国語では、絵を見て「きんぎょ」「じてんしゃ」「せみがなく。」という単語や文を、濁音や拗音、句点に気を付けてひらがなで書くこと。算数では、カブトムシの絵を見て「前から3びき目」に印をつけること。ひまわりの絵を見て「 $4+3$ 」の答えを「7ほん」と書くこと。5人で掃除をしているところに4人来ると、全部で何人来るか、立式し答えを出すこと。

<2年生の各教科の概要と課題>

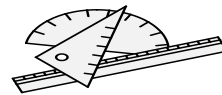
☆国語→北海道平均や札幌市平均と同程度 ☆算数→北海道平均や札幌市平均をやや上回っている

◆課題◆国語では、文章の中から、「三月なかばは、なんきょくでは、あきにあたります。」をいう文に着目し、三月半ばの季節を「あき」を答えること。算数では、「34円のチョコレートと25円のガムを買います。あわせて何円になりますか。」の問題に対し、立式し答えを出すこと。5cm5mmを、55mmと書き換えること。

<3年生の各教科の概要と課題>

☆国語→北海道平均や札幌市平均を下回っている ☆社会→北海道平均や札幌市平均をやや下回っている
☆算数→北海道平均や札幌市平均をやや下回っている ☆理科→北海道平均や札幌市平均をやや下回っている

◆課題◆国語では、猫に関する文章を読み、「この時」とはどのような時を選択肢から選ぶこと。足元を見ずに進んでも、物にぶつからない理由を、「しよく毛」という言葉を用いて20字以上、30字以内で書くこと。文中の常態の文章を、「ほかの部分の言い方と合うように」という指示に従い、敬体に直すこと。「氷水」「発表」という漢字を読み、「動く」、山に「登る」という漢字を書くこと。社会では、方位を表す記号から、東西南北の方位を書くこと。絵地図を見て、地域ごとの特徴を書くこと。算数では、「 $3\times\square=3\times 6-3$ 」の□に「5」と書くこと。示された引き算の筆算の間違いの理由を、十の位から一の位への繰り下がりがされていないからであることを説明すること。「チョコレートが32こあります。1人に4こずつ分けると、何人に分けられますか。」という問題の答えを出すこと。「 $36\div 6$ 」の式になる問題を作ること。理科では、ひまわりの種の観察カードに、種をまいたことや感想の他にも「形や手触り、種の大きさ」などを書くべきであることを答えること。育ったひまわりの絵を見て、「子葉」の部分に色を塗り、そこが子葉だと考えた理由を書くこと。手で持つことができるものを、虫眼鏡を使った観察する際の焦点の合わせ方について答えること。



<4年生の各教科の概要と課題>

☆国語→北海道平均や札幌市平均を下回っている ☆社会→取組単元順の相違から実施せず
☆算数→北海道平均や札幌市平均を下回っている ☆理科→北海道平均や札幌市平均と同程度

◆課題◆国語では、「打ち上げ花火のひみつ」という文章を読み、日本と外国の花火の違いについて、表にまとめること。「一つの花火が何色にも色をかえるひみつを調べてみましょう。」という文章に着目し、このことを説明するために取り上げたものを文中から探し、指示された文字数で書き抜くこと。「席」「実験」という漢字を書くこと。算数では、「 $650\div 5$ 」「 $428\div 4$ 」「 $259\div 7$ 」「 $552\div 6$ 」の計算を行うこと。「ケーキのねだんは480円です。このケーキのねだんは、プリンのおねだんの3倍です。プリンのねだんは何円ですか。」という問題の答えを出すこと。理科では、2日間のそれぞれの気温の変化グラフを見て、どちらが晴れでどちらがくもりの日かを判断し、その理由に「くもりの日は温度変化が小さい」ということを書くこと。モーターが乾電池一個使用の時より早く回る乾電池2個のつなぎ方を、図から選ぶこと。電池とプロペラを使った車が後ろ向きに進んでしまった際、前に進ませるために乾電池の向きを変える理由を、「電流」

という言葉を使って説明すること。

<5年生の各教科の概要と課題>

☆国語→北海道平均や札幌市平均を下回っている ☆社会→北海道平均や札幌市平均を下回っている
☆算数→北海道平均や札幌市平均をやや下回っている ☆理科→北海道平均や札幌市平均を下回っている

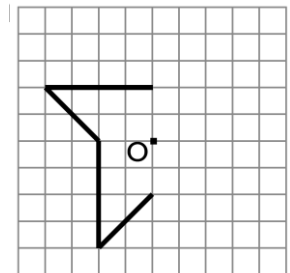
◆課題◆国語では、緊急地震速報に関する文を読み、中抜けされた□の中に「P波」「S波」を当てはめること。文の下部にある図が果たす役割を、選択肢から選ぶこと。「構える」という漢字を読むこと。すがたを「現す」という漢字を書くこと。社会では、白地図から「宮城県」「秋田県」「福島県」「茨城県」を判別すること。北方領土名を書くこと。日本海側と太平洋側の都市の「気温と降水量」のグラフを見比べ、「季節風」という言葉を使って双方の違いについて説明すること。算数では、「 0.78×3.45 」の計算を行うこと。「 40×0.7 」の答えを求めるために「 40×7 」の答えを利用する際、10をかけるのか、10で割るのか、そのままにするのか、選択すること。 $\square \div 0.6$ の商の大きさは、 \square より大きくなるか、小さくなるか、同じになるかを選択すること。(ただし、資格は0ではない。)理科では、空気の有無・水の有無・温度設定の条件をそれぞれ変えて発芽の実験をした際、どの実験で、どの発芽必要条件が分かるのか判断すること。インゲン豆に同じように水と肥料を与えたのに、育てる場所によって育ち方が違う理由を、植物が成長する条件をもとに説明すること。メダカの雄雌を、しりびれで判断することを答えること。解剖顕微鏡の使い方、焦点を合わせる際に、調節ねじを回すということを答えること。2匹のメダカを育ててもなかなかメダカの子が生まれない理由を、「受精」という言葉を使って説明すること。



<6年生の各教科の概要と課題>

☆国語→北海道平均や札幌市平均をやや下回っている ☆社会→北海道平均や札幌市平均を下回っている
☆算数→北海道平均や札幌市平均と同程度 ☆理科→北海道平均や札幌市平均と同程度

◆課題◆国語では、「豊富」「呼吸」という漢字を読むこと。司会を「務める」「評判」という漢字を書くこと。社会では、北方領土名を書くこと。白地図から「鹿児島県」「大分県」を判別すること。聖徳太子が隋に派遣したのは「小野妹子」らであることを書くこと。算数では、 $40 + x \times 2$ の式に合う文章を選択すること。正三角形、正方形、正五角形、正六角形の中から、線対称でも点対称でもある図形を2つ選ぶこと。右の図は、点Oを対象の中心とした点対称な図形の半分であり、残りの半分をかくこと。理科では、実験結果から「ご飯がだ液のはたらきによって、別のものに変化した」ということを導き出すこと。「食べ物を細かくしたり、体に吸収されやすいものに変えたりするはたらきを□という。」の□に「消化」という言葉を当てはめること。「食べ物に含まれていた養分は、□から吸収される。」の□に「小腸」と書き、絵の中から小腸の場所を選ぶこと。



<改善の方向>

比較対象が全国ではないため、北海道や札幌市平均、またはそれらを上回っていても安心はできませんし、「ほっかいどうチャレンジテスト」だけで学習内容全ての達成状況を見取ることはできません。また、今回は特に北海道平均と札幌市平均にも開きがある教科があったため、比較も単純にはいかない面もあります。

ただ、客観的指標のひとつとして今回の結果を受け止め、課題となっている問題を、TTの時間を含めた授業時間で取り扱う、宿題や朝のチャレンジで取り扱うなどしていきます。また、全道的に回答率が低かった問題については、「サポート問題」として朝のチャレンジや宿題、練習プリントなどに取り入れていきます。